井上陽介　東京・渋谷"BODY & SOUL", 2月21日（水）

撮影：高橋慎一

■**Set List**　1st：①ナイト・アンド・デイ　②デイ・トリッパー　③カラフル・ウインド　④ワン・ステップ・ビヨンド／2nd：⑤ブラックバード　⑥スピーク・ロウ　⑦ディア・ダディ　⑧マーシー・マーシー・マーシー　Encore：⑨あこがれのリオデジャネイロ

■**Personnel**　井上陽介（b），武本和大（p），濱田省吾（ds）

3人の鮮烈な音と共に井上の音楽/JAZZへの強い思いとホスピタリティーが溢れたライヴ

新譜『ワン・ステップ・ビヨンド ライヴ・アット・ボディ＆ソウル』の発売日に録音場所の"ボディ＆ソウル"での記念ライヴとくれば期待は高まる。会場は満員。筆者の横の席2つには海外からのお客様も。かつて小曽根真（p），大坂昌彦（ds）とのトリオで演奏した①より。テーマからぐいぐいスイングする。武本が疾走し濱田がプッシュし，井上は微笑みつつソロに入ると指板狭しとフレーズを繰り出し，会場は一曲目から早くも熱くなる。続いて新譜からビートルズの②。武本はブルージーなグルーヴの上で粘りアウトするフレーズが気持ちいい。ベース・ソロに〈オブラディ・オブラダ〉〈カム・トゥゲザー〉〈ゲット・バック〉とビートルズ・メドレーを織り込む楽しさでリラックス。静かにそっと置くような音から始めた武本のオリジナル③は哀感から高揚までイメージの変化が美しかった。1部の最後はアルバム・タイトル④。変化に富んだイントロからドライブ感たっぷりの4ビートへ。武本の多彩でスピード感溢れるプレイをドラムが飛翔させる。井上のソロも絶妙に，サポートする濱田はスイングからアフロへと進み圧巻のソロへ突入したラストだった。

2部はビートルズの⑤から。井上の柔らかなアルコが美しい。武本のファンキーな色から井上の牧歌的な風景へと展開したスタートだ。そして一転，ドラムが引っ張る⑥で空気が変わる。高速で疾走する武本の効果的なブレイクは爽快。井上の迫力のアルコソロは圧倒的な技術に加え〈マイルストーン〉など引用も楽しい。濱田の卓越したソロから一体となったリズムの奔流の中，ウエスト・サイド物語の〈マンボ〉が放り込まれ，これぞ井上ワールドと会場は大いに沸いた。⑦は武本が父に捧げた曲。そっと重ねたピアノの和音の色やタッチが穏やかで強い情感を響かせた心に響く。ラスト⑧はイントロをバックにゴスペル教会牧師風なMCを織り込む井上に思わず拍手。音を楽しむ心根が伝わる。タイトなリズムに生命力が煌めく武本のソロに続き，井上は作曲者のジョー・ザヴィヌルに敬意を表した〈バードランド〉を織り込んだりと縦横無尽だ。コーラスが欲しくなるテーマの最後では歌も差し込まれ脱帽だった。アンコール⑨（塩谷哲作曲）では会場が手拍子で一体となり，楽しさと幸福感が満ちた。3人の鮮烈な音と共に井上の音楽/JAZZへの強い思いとホスピタリティーが溢れたライヴだった。これから続く全国ツアーでさらにどんな音が創られて行くのか楽しみだ。（伊藤嘉章）